

円満寺報

第189号

令和4年3月1日発行

天台宗 別格本山 安禅院円満寺

〒220-0061 横浜市西区久保町50-1

電話 (045) 231-4383

FAX (045) 241-4499

http://enmanji-yokohama.jp/ e-mail:enmanji@xb3.so-net.ne.jp

節分会大般若転読法要勤修さる



節分会大般若転読法要（円満寺本堂にて）

安禅院第四十世 住職 西 郊 良 光
円満寺第五世

例年行われております「節分会」祈読法要は二月三日午前
十時より院内僧侶出仕のもと行われました。今年もコロナの
流行により、檀信徒の方々をお招きして行う事は中止し、祈
読法要のみが行われました。

また、例年行っておりました「豆まき」も中止となり、寂
しい節分会となりました。節分会で祈読された御札は申込さ
れた方々に郵送させていただきました。例年より多くの申込
をいただき有難く存しております。

節分会については今更申し上げる事でもなく、厄年に相当
する方々の厄を除く行事として古来より行われており、当寺
も一番最初は今から九十年前程前より行っておりました。（一度
途絶えた時期もありましたが、平成元年から今の形に復興し
ました）

昔の写真を見ますと、豆まきが終わった後に接待が行われ、
ご祈祷の後に頂かれるお酒は格別のように、多くの人々が大
変喜んでおられる情景が残っております。

今日の社会状況を考えますと、コロナによってあらゆる行
事、会合ができなくなり社会的活動が失われてしまっており、
これらの解決の為に節分会の祈読は大変重要であると思わ
ざるを得ません。

豆まきに関しては当日、例年豆まきにご参加されている方
が訪ねてこられました。「このような行事を途絶えさせてはな
らない」と思いますのは私だけではないと思います。やはり
昔から続いている厄除けの行事ですので、来年は是非行っ
て下さいとの激励の言葉をいただきました。

円満寺と致しましても、このようなお声をいただき少なく
ともご祈祷だけは行わせていただき、明年に向けてコロナウ
イルスの流行終息を改めてお祈りさせていただきました。皆
様もコロナウイルスに充分にご注意頂きつつ、元気で健康に
お過ごし下さる事を祈っております。

永代供養墓「沙羅双樹の杜」分譲 好評受付中

円満寺では近年「跡継ぎがない」「身寄りのない遠い親戚が亡くなり、埋葬するべきお墓がない」「田舎のお墓を墓じまいして横浜に移転したい」「既に手元にご遺骨を抱えている」等のご事情でご相談を受ける場面が増えてまいりました。

お寺が直接運営する永代供養墓ですので、残された方々がいらっしゃる間はできる限り普通のお墓と同じようにお参りができるように、残された方がいらっしゃらない場合はお寺が永代に渡ってていねいにご供養を行うよう考慮されています。個別にご相談やご案内を行わせて頂いておりますのでお気軽にお問い合わせ下さいませ。

●「沙羅」区画 80万円～100万円

(場所によりお値段が変わります。お墓の機能や広さは同じです)

個別区画になっている永代供養墓。遺骨は骨壺で2柱(骨袋に移し替えれば4柱入ります)を安置することができ、永代にわたってご供養いたします。

●「双樹」区画 60万円

納骨堂の中に遺骨を納める永代供養墓。それぞれの区画に遺骨は骨壺で2柱(骨袋に移し替えれば4柱入ります)を安置することができ、永代にわたってご供養いたします。

※沙羅、双樹ともに最後にご遺骨が埋葬され、十七回忌まではそのままの区画に骨壺で安置し、その後合祀の区画に移します。

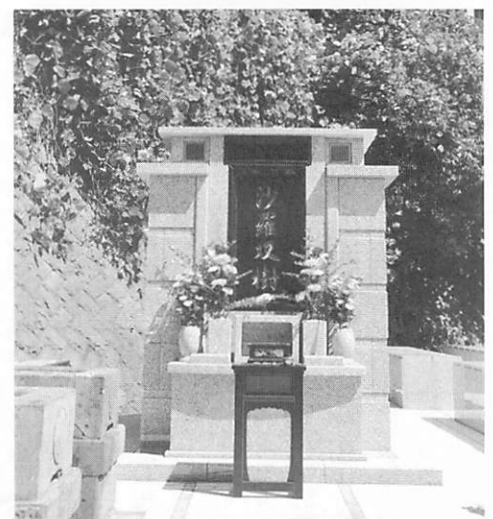
●墓じまいをご検討の方へ

墓じまいに関する各種ご相談を受け付けております。別の墓地から円満寺墓地や「沙羅双樹の杜」への移転の場合はもちろんのこと、やむを得ず円満寺墓地を墓じまいしたい、という場合は「既存のお墓を残したまま、永代供養を行う」という方法もございます。

お墓は皆様の大切な財産でございますので、悔いの残らないよう種々なご検討をするお手伝いをさせていただければ幸いです。



「沙羅」区画



「双樹」区画

電話 045-231-4383 担当 西野まで

春彼岸会によせて

人間として生まれて来た方は、将来的には克服できるかもしれないが今のところ、年齢の差はあっても必ず死を迎えます。仏教では我々、生きている人間の住む世界を此岸（しがん）と呼び、亡くなった方が行くところは彼岸（ひがん）と呼んでいます。極楽浄土といわれる、安らかに過ごせる世界が死後には広がっていると考えられており、様々な法要も「故人様やご先祖様に極楽浄土へ行っていただく」事を願う方が多いと思います。

この「此岸」と「彼岸」の距離が最も縮まるのが、昼と夜の長さがほぼ同じになる「春分の日」と「秋分の日」だとされており、それぞれ「春分の日」と「秋分の日」になっており、円満寺でも春と秋のお彼岸では中日に大法要を行っております。最古の記録だと平

安時代に既にこの時期にお経を転読した、という記録が残っておりますので、少なくとも二二〇〇年前から日本には春のお彼岸や秋のお彼岸にご供養をする風習があった、という事になります。

お彼岸に良くお話される仏教の教えとして、「二河白道」（にかびやくどう）があります。

現世と極楽浄土は白い一本の道で結ばれているけれど、渡るには左右に障害がある、というたとえ話です。右には「執着」（むさぼる心）に満ちた水の河が、左には「怒りや憎しみ」が燃えさかる炎の河があり、極楽浄土に辿りつくには阿弥陀仏（あみだぶつ）をはじめとした仏様の導く声を聞きながら、一心に渡る事により極楽浄土にたどり着ける、というお話です。

この例え話は信仰のあり方のみならず、人の抱く感情をコントロールすることの大事さも教えていると私は考えています。古くは7世紀から説かれていた教えです。様々な困難に直面し、感情が爆発しそうになってしまいがちなコロナ禍だからこそ、お彼岸などの様々な機会を通じて先人の知恵に思いを馳せ、祈りを捧げていけたらと思っております。

（良嘉記）

ご法要等の開催状況について

ご法要等の開催状況についてご報告をさせていただきます。

● お通夜・お葬式について

通常通り行っております。「円満寺霊殿」も使用可能です。僧侶もマスクを着用しお伺いさせていただきます、読経の際のみ外させて頂いております。

● 円満寺での年回法要について

平常通り行っておりますが、以下のような対策を取らせて頂いておりますのでご協力をお願いいたします。（墓地への納骨も通常通り行っております）

- 入口にアルコール消毒及び検温ができる機材を設置してありますので、入退場時に手指消毒等へのご協力をお願いいたします。
- マスクの着用をお願いいたします。（本堂内へもマスクを着用しご入堂をお願いいたします）
- 参列の皆様は座席間隔を広く取らせて頂いております。

- 本堂の障子や窓を一部開けたままにさせていただきます。
- 法要後のご会食にもご対応致しません。「お弁当を注文してお持ち帰り」にもご対応させていただきます。

● お彼岸やお盆の 大法要について

大法要は従来通り行っておりますが、混雑を避けるため参列の人数に制限を設けさせていただきます。郵送しております大法要のご案内に必ずお目直し頂くようお願いいたします。

● 写経会について

現在開催を中止させて頂いております。再開の際は紙面にてお知らせいたします。



円満寺は「おてらおやつクラブ」に

参加・協力しています

「おてらおやつクラブ」とは、お寺でお供えされるお供え物を「おさがり」として、経済的に困難な状況にある子供に「おすそ分け」する慈善活動団体で、当寺も平成二十八年から活動に参加、おかげさまで述べ五十回以上の支援を行っています。

お寺で行う年回法要や、お盆、お彼岸といった大法要等の際にお供えとしてお持ち頂きましたお菓子や食料品の一部は、当寺ではおてらおやつクラブの規定に応じて支援物資としてお送りをさせて頂いております。

らつぷ てやら おおク

す。平素、法要等の際にお菓子等をお供え下さっている檀信徒の皆様にはもちろんのこと、支援用の食料品（お米等）を持参頂いた

方々にもこの場をお借りし、ご支援・ご協力への御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。



新型コロナウイルスの終息が見えない現況から、子供を養うはずの親もなかなか安定した仕事に就けないという報告が支援団体には寄せられているようで、支援が必要な家庭は増える傾向にあり、おてらおやつクラブでも昨年末一人親家庭の支援を拡充した、というお知らせが来ておりました。歳末の助け合いにもご協力をさせて頂きました。

我々も法務の合間にてのご協力となつてはおりますが、できる限り今後も支援を続けていけたらと思っております。引き続きの皆様のご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また報告事項として、副任職が全日本仏教青年会理事長に就任した事が報告され、同会がどのような歴史や役割を持つ団体なのか、また今後どのような活動をしていき、円満寺での活動とどのように関わっていくのか等が報告された。(前号に関連記事掲載)

円満寺総代会が開催される

一月二十二日午後四時より円満寺総代会がロイヤルホールヨコハマにて開催された。

議事の中において、円満寺護持会の中間報告が行われ、ほぼ例年同様の護持会収支内容が報告された。

また、円満寺が運営する永代供養墓「沙羅双樹の杜」が好評につき昨年多くのご契約を頂いた旨が報告され、引き続き新規分譲の受け付け、及び墓じまい等への対応を継続していく事が確認された。(関連二頁)

新型コロナウイルス関係の対応としては従来より行っている院内の消毒作業や入口への手指消毒用消毒液の設置に加え、検温ができる装置を設置した方が良いのではとの提案がなされ、書院入口に消毒及び検温ができる機材が導入される運びとなった。

約三十年を経て今に至りますが、今の私の大きな力となっている「IT、特にパソコンに強い」能力は実は将棋をやっている時に得た能力です。当時、効率化の為に将棋をパソコンで研究する必要があり必死に覚え、それが財産として残ったのです。

編集後記

将棋のプロである藤井聡太棋士が史上最年少五冠となって大きな話題となりました。凄まじい快挙でただただ感心するばかりですが、将棋はプロになれる数が年間四人しか居ない上に厳しい年齢制限があります。十五歳から年齢制限に引っぱり、二十五歳までにプロにならないとその道はほぼ閉ざされます。研究に膨大な時間が必要になるため高校進学をしない人も多く、プロになれなかった場合の保障や雇用先も特にありません。

私も六、十五歳まで将棋のプロ志望で、プロ棋士にも弟子入りし毎日最低八時間は将棋の勉強を続けましたが力及ばず断念。その時は「これから何をやればいいのかわからない」という心境になったのをよく覚えています。

「人生に無駄なことなんてない」と言っただけですが、真剣に生きれば生きるほどうまく行かなかったときのダメージは深いです。そうした時には、日々自分を支えてくれる存在に感謝をしつつ、文字通り「次の一手」をまた真剣に考える、そうした繰り返しの中に何かヒントが見つかるかもしれません。(良嘉記)

